

# 稲永準動詞講義 の実況中継 (中)

講師 稲永亮(臨海セミナー講師)

不定詞②(副詞用法)～動名詞



## 第2講 不定詞の理解(2)

### ● 不定詞の副詞用法に入る前に

不定詞の2回目になります。不定詞の中で一番難しいのは形容詞用法だけど、一番面倒なのは副詞用法かもしれません。なにせ意味がたくさんあるからね。それでも、基本方針は同じ。仕組みは『稲永準動詞講義の実況中継(上)』を読んで理解していて下さいね。急がば回れです。単元を速く終わらせるために細かいところをごまかす癖はやめてしまいましょう。もちろんモタモタ勉強するのももってのほかですが。さて、副詞用法の特徴と攻め方はこんなところですよ。

不定詞の副詞用法

[特徴]

基本的には見た目は全部同じ(to do～)。ただし意味によっては特定の形があることもある。

[戦略]

まず意味を覚えてしまう。その際代表的な例文を覚えておくと、実際にその文にあった時にどの文に似ているかを見ることで、すぐに意味を特定できる。その意味に特定の形はもちろん完全に覚えて、即答するのに役立てる！

今回は簡単な例文をいくつか覚えておくといいですね。ベースとなることの知識をしっかりとっているのであれば、あとは暗記でいくつか知識を付け足すと、点数が伸びます。これは両輪なんです。よく受験英文法において、「英語は暗記だ」「英語は理解だ」論争があります。英語ができるようになるためには、英語を丸暗記した方が速いのか、理屈で攻めていった方が速いのかという論争です。これに関して僕は、都合よく「どっちも大事」だと思っています。どういうことかということ、「理解をベースにやっていくが、場合に応じて暗記をすることで、余計な思考を省く」ということです。英文法のイメージというのは、僕はブドウに近いと思っています。武道じゃないです。ブドウ。英語でグレープ(grape)です。さあ、第2講も元気よく稲永が意味の分からないことを言い出しましたね。別に八百屋

が英語が得意っていうんじゃないんです。これを見てください。

英文法はブドウ

実(おいしい)…点が取れるところ。知識。

芯(おいしくない)…これだけでは点は取れないが、知識をたくさん確保するのに必要。

ご説明しましょう。英文法において、「英語の知識」が「実」です。ブドウの実って、おいしいですよ。まさか、巨峰買ってきて芯を食べる人はいないでしょう。そのおいしいところ(つまり試験で問われるところ、点になるところ)をたくさん持っていないと、いろんな意味でマズイわけです。じゃあ、暗記して実をどんどん取り込めばいいじゃないかという話になるが、それは違う。ブドウの実だけでは、長くもたないんです。皆さんはブドウをどんな状態で買いますか。ほとんど皆が、芯についての状態のものを買うでしょう。芯は食べないのに。それはなぜかという、芯についていないと、ブドウはダメになるんですね。よくスーパーの見切り品とか、実だけ取った状態でパックに入ってますけど、これが全然おいしくない。しかも日持ちもしません。すぐに腐れてしまいます。芯についている状態なら、持ち上げたら実が全部ついてきますが、芯がなければ実は全部落ちて腐ってしまいます。

ここでは「芯」は「理解」になります。前も言ったけど、理解は問われません。「問1 不定詞の存在意義とは何か。」なんて問題は出ないからね。だから、理解をしても確かに点にはならない。でも、ブドウがおいしくもないし、受粉を促進するハチやチョウを呼び寄せる匂いもしない芯をわざわざ太くしっかりと作るのはなぜか。答えはブドウの実がたくさんつくからです。芯が弱いと実は落ちますし、たくさんつきません。

英語の話に戻しましょう。まずは理解をするんです。「不定詞は分を崩す準動詞というグループに属して、名詞・形容詞・副詞があって…」というのがブドウの芯。「不定詞は普通Sが消えちゃう。必要ないならそれでもいいが、どうしても必要なら人工的にくっつける必要がある。それが不定詞の『意味上の主語』で、ここでは⑤と書く」というのもブドウの芯。そういう風に下地を作ったら、それに「不定詞の意味上の主語はforやof」という具体的な実をそれにくっつけていく。そうすると点が取れる。

暗記も否定はできないですよ。だって、dog がどうして「イヌ」かなんて突き詰めるわけにはいかないでしょ。理解は芯、暗記は実。丸暗記だと実が付きにくいのにすぐに落ちてしまう(覚えにくいのに忘れてしまう)から、理解をして知識が定着するための土台をつくるということです。理解をしたら、覚えなければいけないものは覚えましょう。

## ●まずは副詞のはたらきを確認

さて、それでは副詞用法に行きますよ。今回からは、出てくる例文も覚えておきましょう。まあ、最悪丸暗記はしなくても他の文に不定詞の副詞用法を見つけたら「ああ、これは『感情の原因』の英文のタイプだ。」と気づけばいいでしょう。では不定詞に行く前に1分で副詞のはたらきを復習します。この時点でまだ副詞がわからないっていうのは、本当なら怒られるところなんですがね(笑)。それを確認して差し上げるなんて優しいんでしょう(笑)。うそうそ、今のうちにこっそり覚えておきなさい。

副詞…(例)very, almost

動詞・形容詞・副詞・文全体を修飾する。必ずしも必要なものではないので、なくても文は成立する。

※「名詞以外を修飾」という覚え方はダメ。

副詞は飾りでしたね。より文を丁寧に説明したいからついているものです。よく、「名詞以外を修飾する」って習う人がいるけれど、それはやめておきましょう。確かにわかりやすいんだけど、僕が「じゃあ具体的に何を修飾するの？」と聞くと、まず間違いなく答えられない。それじゃあ結局修飾しているんものがボケてしまう。しっかりと4つ。「動詞・形容詞・副詞・文全体」で覚えておきましょう。副詞は飾りということについてだけど、「彼女はかわいく話す。」っていうのも「彼女は話す。」と言っても十分でしょ。「かわいく」っていうのは「話す」っていう動詞を修飾する副詞になっています。不定詞の副詞用法も同じように「必ず必要なわけではないが、動詞・形容詞・副詞・文全体をより詳しく説明する」ために存在しています。はい、ここまでが復習でした。では不定詞に戻ります。

じゃあまずは「感情の原因」。副詞用法は簡単な順に行きますよ。

## ●「感情の原因」「判断の根拠」はかんたん。

これは簡単。大体のテキストで一番最初に習うのはこれなんじゃないかな。じゃあ、最初の例文。覚えて下さいね。たった6語です。

不定詞副詞用法 「感情の原因」

⑤ ⑥

I 'm happy <to see you>.  
S V C  
感情

「あなたに会えて幸せです。」

元の文 = I saw you.

ええ、これは不定詞が **happy** を修飾しています。**happy** は感情で、今回はその **happy** を生み出した原因を不定詞が説明していますよ。まあ、それだけなんです。難しくはないね。ただ気づければ終了。注意事項ありません。これとほぼ同じ思考でいいのは、「判断の根拠」。

不定詞副詞用法 「判断の根拠」

⑤

⑥

He was careless <to say such a thing>.  
S V C  
判断

「そんなことを言うなんて、彼は不注意だった。」

元の文 = He said such a thing.

ここでは彼を **careless** 「不注意」だと言っている。でもそんなことをいきなり言われてみなさいよ。「君は不注意だ。」とかね。えっなんで？失礼な！と思いますよね。だからその根拠や理由を後ろから説明しているんです。これは不定詞に限った話ではない。英語はよくわからない単語をまず言っておいて、その後なんらかの形で説明するという流れが非常に多い。これを僕は「抽象→具体の法則」と言っています。今回もそう。いきなり **careless** と言われたってわからないから、後ろから説明しています。思い出してもらいたいのが、形容詞用法でやった同格の不定詞もそうでした。あれは抽

象名詞がまず来ていて、それをいきなり言われてもわからない。復習すると「私は機会を持っている」とかね。だから後ろからどんな機会なのか説明したわけだ。今回も同じ。

ただ、大事なのは「この不定詞は感情の理由か判断の根拠か」と固執することがゴールではないからね。「抽象→具体の法則」に従って、前の単語の理由を説明しているということがわかれば十分読めます。だから「感情の理由」「判断の根拠」という言葉を覚える必要はあんまりないね。何度も言うけれども、この例文を覚えなさいよ。いいね。

## ●「目的」は、in order to～や so as to～を確実におさえよ

さて、目的用法。これものすごく使いやすいね。英作文なんかで日本人が使いまくります(笑)。「～するために～ああああ不定詞不定詞不定詞いいいい!!!」みたいな(笑)。ただ、それだけ使いやすい文法であると言えますな。

不定詞副詞用法 「目的」

㉞ ㉟

<To study music>, she went to England.

S V

「音楽を勉強するため、彼女はイギリスに渡った。」

元の文=She studies music.

不定詞が文頭に立つ場合は名詞用法と副詞用法があるということと、その見分け方は上巻の p.21 で解説しましたね。それで副詞用法は不定詞のカタマリの後にSVが来るということでしたが、今回はまさにそうですね。それはいいとして、今回はそれをさらに掘り下げて完成させます。文頭に立っている不定詞が副詞用法だとわかる。その後の思考プロセスですが、実は文頭に立つ不定詞の副詞用法って限られているんです。それは「目的」と「条件」それから「独立不定詞(慣用表現)」の2つだけ。その中でも目的が圧倒的です。条件」と「独立不定詞」はまた後でやるので、今はまだ知らなくてもいい。とりあえずは「目的用法は文頭に立つことが多い。」ということを知っておくこと。いいですね。じゃあ、とりあえず、もう一度文頭の不定詞の見分け方を見てみましょう。これが完成編だよ。

## 文頭の不定詞の見分け方

[To V ~] V                    …不定詞句の次に動詞(V)が来ている＝名詞用法  
S

<To V ~> S V                …不定詞句の次に主語・動詞(SV)が来ている

**＝副詞用法の「目的」「条件」「独立不定詞」のどれか！**

さて、目的用法には専用の形があります。これを見たら、不定詞副詞用法で、かつ目的用法だという便利なものです。それでは、それを見てみましょうか。

### 不定詞副詞用法 「目的」の特有表現

⑤      ⑥

<**In order to** study music>, she went to England.  
S                    V

⑤      ⑥

<**So as to** study music>, she went to England.  
S                    V

「音楽を勉強するため、彼女はイギリスに渡った。」  
元の文＝She studies music.

例文はさっきと同じね。to の前になんかついてます。そう。これが目的用法特有の形。in order to~と so as to~です。……あれ、なんか顔がこわばってますね(笑)。なんですか？…in order っていうのがなんか難しそうでどう訳せばいいのかって？また鬼瓦現象ですか(笑)？いいですか、この部分は訳す必要はない。意味もいちいち考えなくていい。普通の不定詞と同じに見てください。こやつらの存在意義はただ、君たちに「これは目的用法だよ。」と教えるためだけ。君たちはそのご厚意をありがたく頂ければいいんです。わかりましたか。ただそれだけです。ああ、嬉しそうな顔に戻りましたね。よかった、よかった。

さて、笑顔に戻ったところで注意しますが、in order to はそのまま



でいいんだけど、so as to はちょっとだけ注意事項があります。so as to が 3 語ともくっついている場合は、これは目的用法なんだけど、so as の 2 語と to が離れている場合があります。この場合は意味が「程度」に変わります(それもまた後でやります)。

so as to V / so as …to V

so as to ~ とくっついている場合は「目的」  
不定詞を元の文にすると so that S 助動詞 V~

so as… to ~ と離れている場合は「程度」  
不定詞を元の文にすると so… that S 助動詞 V~ (p.16 参照)

ここまでおさえれば目的用法は完璧。次は「結果用法」です。

## ●「結果」はある程度形が決まっている。

さて、結果用法ですが、とりあえず例文から検討しましょう。

不定詞副詞用法 「結果」

⑤

⑥

He grew up <to be a famous scholar>.  
S V

「彼は成長して、有名な学者になった。」  
元の文=He was a famous scholar.

⑤

⑥

She lived <to be ninety>.  
S V

「彼女は(生きて)、90 歳になった。」  
元の文=She was ninety.

⑤

⑥

He woke up <to find himself in jail>.

S V

「彼が目を覚ますと、刑務所の中にいることに気づいた。」

元の文=He found himself in jail.

⑦

He worked hard<only to fail>.

S V

「彼は一生懸命働いたが、失敗しただけだった。」

元の文=He only failed.

結果用法は文頭に立ってない他の不定詞と見た目は一緒です。特に目的用法と紛らわしい。ただ、これねえ、訳してみると一発ですね。じゃあちよっとバカになって、目的でやってみましょう。

まず一文目。「彼は成長して、その結果有名な学者になった。」となります。これ、目的だったらどう？「彼は有名な学者になるために成長した。」……君はどう思うね？

生徒「……別にいいような気がしますけど…？」

うん。これ、一見よさそうね。でもそれは日本語の問題だねえ。例えばこれ、「有名な学者になるために勉強した。」ならいいですよ。でもさあ、成長って、有名な学者になるためにするものですか？成長は誰しも勝手にするものですよ。それに理由なんかない。ご飯食べてただけでしょ。じゃあ、人生に目的や夢がないニートはいつまでも身長 130cm のままなんですか(笑)？だとしたらおばさん達がこぞって夢を捨て始めそうですね。これこそ究極のアンチエイジングだわ！とか言って(笑)。ええ、わかりましたね。「成長した、その結果大人になって、有名な学者になりました。」の流れをおさえるんですよ。

では次の文はいかがかな。こっちはもっとひどいね(笑)。目的で訳しま

すか？「彼女は 90 歳になるために生きた。」これはひどい(笑)だって、これ、こうですよ。

家族「おばあちゃん！90 歳のお誕生日おめでとう！！」

おば「ありがとう、これでもう思い残すことはないわ！！！チーン」

家族「おばあちゃん！！！」

いや、なんですかこれ(笑)。

わかりましたね。「何のために生まれて、何をして喜ぶ、わからないまま終わるそんなのは嫌だ」とはいいますね。ええ、アンパンマンですが。でもかといって、「90 歳になるために生まれる」のだって嫌ですよ。これはあくまで結果として、90 歳になったということです。

次の文はもう意味すら不明になりますよ。「彼は刑務所にいることを発見するために目を覚ました。」って。もう解説不要ですね。

最後はむなしいねえ。「彼はただ失敗するために一生懸命仕事をしたのだった。」まあ、最後に思いっきり崩すために砂山を作る子供とかいますからダメとは言わないけど…。それでいいならいいんだけど、でもこれ、普通は **only to** ~で「結果~しただけだった。」という風に読みます。まず結果用法ととってもらっていいでしょう。因みにこれを目的用法で読ませようとしてもほとんどの常識ある人々は結果用法で読んでしまうね。どうしたら目的用法で読んでもらえるかな？

生徒「……………」

忘れるの早いですねえ(笑)。それなら **in order to** で書けばいいんです。**so as to** とかね。

生徒「なるほど。」

まあ、大体の結果用法はこの辺の動詞を使っています。これくらいの知識を覚えておくと、文法問題を解くとき理解よりも先だって、直観で「結果用法」だと気付ける。直感じゃないですよ。直観。英語で言うと直感は **inspiration** で、これはいわゆるヤマ勘。鉛筆転がすやつ。直観は **intuition** です。これは職人の勘とかいうやつで、経験から瞬時に正しいことをすることができる能力のこと。理解から考えると時間がかかるからね。知識でまず瞬時に「結果用法かな？」と閃いて、……いきなりマークシート塗り

つぶしたらダメですよ。見当をつけた解答を当てはめてみて、それで問題がないかどうか、他の答えはないかを理解した知識で確かめるんです。前も言ったけど、ブドウは房の状態で完成させるんだからね。知識が一切ない芯だけの不味いブドウ(ともいえない)ものでもダメだし、知識はあるくせに、理解していないからそれが全部落ちて腐ってるブドウでもダメ。暗記と理解は両輪です。理解したら問題をどんどん解いて、経験則でよくあるパターンをおさえていく。それでスピードは段違いに上がります。どちらかしかやっていない生徒はモタモタ解いている。そうすると分単位で解ける問題が違ふ。結果的に理解するのにかかった手間なんてあっという間に取り返して、莫大な時間差をつけてしまうんです。目先の時間にとらわれてはいけませんよ。

最後に復習ですが、今回の文の元の形を見てごらん。その前にちゃんと不定詞を元の文に戻す練習を続けてますか？これは無意識にできるくらいまでしっかり続けるんだよ。んで、今回の元の形ですが、全部過去形になっていますよね。これ完了不定詞にしなくていいんですか？……ここで「逆になんで完了不定詞にしなき」いけないんですか？」と言ってくれたら頼もしいね。そう主節のVも⑤もどっちも過去のことだから時間にズレがない。だから完了不定詞なんかにする必要はないもんね。完了不定詞にするときはVと⑤の時間がズレているときですね。必ず不定詞のほうが時間が古いので、その場合は完了不定詞にするんです。よし、ここまで見たら、結果もおしまい。

## ●「限定」と「程度」は 注意が必要！

さて、不定詞副詞用法のボスです。これは中途半端な理解にしてはいけません。特に気を使って。ここからは力を入れて解いていきますよ。いいね。

不定詞副詞用法 「限定」

⑤      ⑥

This book   is   easy <to read      >.

S                  V                  C

難易形容詞

「この本は読みやすい。」

さて、この文なんだけど、これは「限定」用法といいます。その名の通り、限定するんだけど、何でもかんでも限定はできません。「難易形容詞」のみを限定します。難易形容詞というのは、「簡単」「難しい」「不可能」「危険」といったような形容詞です。まとめておきますか。

### 難易形容詞

easy / difficult / hard / though / impossible / dangerous

これも「抽象→具体の法則」だと思えばいいかな。This book is easy.だと「この本は簡単。」という意味になるけど、それは何が簡単なの？読むこと？破ること？燃やすこと？…それを説明してるわけね。

まあ、意味的にはそれで説明はおしまい。だから読むときには「感情の原因」や「判断の根拠」のノリで前の単語を説明していると読めばよろしい。だけど、書くときは注意が必要なの。ちょっと見てみようか。readって動詞ですけど、これ他動詞だよねえ。…え！？自動詞と他動詞がよくわかっていないですって？まあまあ、それは困りましたね。じゃあそれを右のページにまとめますから、わからない人はこそっと覚えなおしましょう。

自動詞…(例)go , look

自分一人で行う動作。

他動詞…(例)read , eat

何かほかのものに影響を与える動作。

これはあくまで日本語的に考えた分類法なので、全部がうまくいくわけではありません。でもこれでかなり簡単にわかるようになります。これでもうまくいかない紛らわしい動詞ってありましたね。それは準動詞の範囲ではないので、各自やりなおしておいてくださいね。enterとかmarryとかね。やったでしょ。

自動詞は「自分一人で行う動作」のこと。極端な話、この世界に自分一人になってもできるような動作。他動詞は人なり物なり「何か他のものに影響を与えている動作」になります。



文とかでこういうのをわざわざ書く必要はありませんから、できるだけ使わないのが賢明です。例えば形式主語で書いたっていいんですから。It is easy to read this book. ってね。話を戻すと、この構文は必ず不定詞句内に空きがあり、そこにその文の主語を戻さなければいけないってことです。そうすると、当然英文が主語に戻ってきますね。そうすると英文が無限ループになりますね。This book is easy to read this book is easy to read this book is easy to read this book is easy to read this book is easy …ね。これが「循環構文」の名前の秘密でございます。とりあえずそういう風に理解しておきましょう。

さて、また余談ですが、この英文で出てくる本、どんな本だろうか。読みやすいってんだよね。例えばこれが『ぐりとぐら』みたいな本ならば、誰にでも読みやすいからこれでもいいね。だけど、例えばこれが学術書で、ものすごく難しいんだけど、自分もかなり勉強したから自分には読みやすいといいたい。そうする場合はどうする？

生徒「意味上の主語をつける。」

その通り、素晴らしい。君たちは原理を理解しているから自由自在に使いこなせるんですよ。ここでサラッと意味上の主語つけとくかーなんて発想にたどり着けるのは相当にすごいことだと思って、自信を持ちなさいね。本当によくできました。要はこういう風に書けばいいわけね。

㊸
㊹
㊺

This book   is   easy <for me to read \_\_\_\_\_>

S                      V                      C

(this book の場所を空ける)

「この本は私が読むのは簡単だ。」

元の文=I read this book.

もう一度話を「限定用法」に戻して、まとめると、「限定用法は読むときは無意識に読めてしまうけど、書くときは不定詞の中の㊺の位置を空けておかなければいけない」ってことでした。書く時は気を付けようね。「私は英作文ないから大丈夫！」っていい気になってる人、センター試験とか私大の試験には整序英作文ありますよ。

次は「程度」ですが、これはもう形が決まっていますので、読むときは判

断する必要はありません。ただし、「限定」と同じで、やっぱり書くときは注意が必要です。一気にいきますよ。

不定詞副詞用法 「程度」と「程度」に特有の表現

⑤

⑥

This book is easy **enough** <for me to read> .

S

V

C

⑤

⑥

This book is **so** easy <for me **as** to read> .

S

V

C

This book is **so** easy <**that** I can read it> .

S

V

C

「この本は私が読むのには十分簡単だ。」

元の文= I read this book.

まあ読むのは簡単だね。まず最初の **This book is easy enough for me to read.** から。これも「抽象→具体の法則」。「この本は十分に簡単です。」何の話？「私が読むのに」。enough の品詞はなんだかわかる？ヒントは easy を修飾してるから...？

生徒「副詞。」

ヒント簡単すぎた(笑)？大丈夫ね。easy は「簡単だ」という形容詞だから、それを修飾する enough は副詞だよ。で、副詞の enough に関しては注意があって、しかも文法問題でも頻出なんだけど、実は副詞の enough は、必ず被修飾語の後ろからかかります。簡単に言えば、enough easy とは言えないってこと。必ず easy enough です。これは受験の日まで忘れないようにね。今回は意味上の主語をつけてみました。で、程度の特有表現で、so...as to 構文というのがあります。これは目的用法とは違うよってことは目的のところまで済ませましたね。so as to do V は「目的」特有の用法、so...as to V は「程度」特有の表現ね。This book is so easy for me as to read . 今回も「抽象→具体」は同じ。「この本はそんなに簡単」どんなに？「私が読むのに」。いいですね。



## ●「程度」は書き換え構文までおさえて

次は書き換え構文です。従来の勉強方法であれば、この辺も「覚えましょう」になってしまうんだけど…。すごいよね。こんなになんでもかんでも覚えろって、まず間違いなく僕だったらできないですね。文系はこれに加えて歴史科目までやるんだし、理系は化学式やら数学公式の山でしょ。これが同時に覚えては忘れを繰り返してるんだから…。すごい話です。

でもご安心。君らなら大丈夫。じゃあ、さっきの板書をもう一度。

㊸

㊹

This book is so easy <for me **as to** read> .  
S      V      C

This book is so easy <**that** I can read it> .  
S      V      C

これ、for me as to read.が、that I can read it.に書き換えられるよってことなんだけど、これ、当たり前じゃない(笑)?だって、どっちも元は文だったんだから。接続詞 that をつかって、そのまま文にくっつけるか、それとも文を崩して句にして文にくっつけるのかの違いでしょ。準動詞の歴史的背景がわかれば何も問題ないわけですよ。これが理解ですよ。ブドウの芯。しっかりした芯にはブドウの実がポンポンくっついていくんです。いいね。

ところで、この that 節で書いた場合の構文は、so…that 構文っていいます。これも読解では頻出よね。「そんなにも簡単」の内容を that 節が説明しています。この構文の特徴は that 節が副詞節を作っているところ。これ、なかなか知られていないんだけど、that 節は基本的に名詞節しか作りません。でも 2 種類くらい例外があって、そのうちの 1 つが so…that 構文で、これは今言ったように so を修飾している。…ん? なに? 何か質問?

生徒「え。先生、so…that 構文、read の後ろに it って書きちゃってますよ。」

ん? ああ、そうですよ。なんで?

生徒「え、だって read の後ろは空けておくんじゃないんですか？」

そうですよ。不定詞副詞用法「程度」の構文はね(笑)?これ、どこが不定詞です?うん、今のは、いい指摘ですよ。これは不定詞じゃない。that 節です。だから、ここは空けちゃダメです。ここは完全文で書くんです。普通に read は他動詞なんで、目的語には book。二度目だから代名詞にして it をかかなきゃ。ね。これも暗記じゃない。必ず理解をして。

この「程度」表現3つはいつでも書き換えられるようにしておいてね。丸暗記すると忘れるけど、理解したうえで暗記しておけば、ある程度忘れても導き出せるよ。

今の3つは「～できるほど○○」の程度の表し方だけど今度は「～できないほどに○○」っていう逆パターンです。これは知ってるかな。高校受験でもやったでしょ。too~to…構文ってやつだ。

不定詞副詞用法 「程度」と「程度」に特有の表現2

⑤                      ⑥

This book is too difficult <for me to read> .

S            V                      C

This book is so difficult <that I can't read it> .

S            V                      C

「この本は私が読むには難しすぎて読めない。」

元の文= I can't read this book.

これも思考は同じ。「この本は難しすぎる。」何に?「私が読むのに」。ってね。さっきの真逆の意味なんで、so…that 構文も、否定文にするだけでいいよね。今回も that 節の方はきちんと目的語を書いてね。

よし、程度用法もおしまい。あとは楽チンです。簡単にいきましょう。

## ●「条件」は文頭に立つことができる。仮定法でよくつかわれる用法。

不定詞副詞用法 「条件」

㉖      ㉗

<To hear his English> you would take him for an English.  
S                      V                      O

「彼の英語を聞いたら、あなたは彼をイギリス人だと勘違いするでしょう。」  
元の文= You hear his English.

これは仮定法で習う人がほとんどかもね。不定詞が仮定法をつくる～とか言ってる。いつも言うんですが、不定詞が仮定法を作るわけじゃありません。これは **would take** という「過去形」が仮定法を作っているんです。ただ、If 節(これも仮定法の時によく使われるだけで、これがあれば仮定法というわけではありません)の代わりに不定詞を作っているだけです。

あと **take A for B** も知っておかなきゃね。「A と B を勘違いする」という意味。**take** はご存じ「持つテイク」。**for** は「交換」の意味で使われています。「A と B を交換して持って行ってしまう」＝「A と B を間違える」という意味になっているんですね。

## ●「独立不定詞」は訳を覚えておしまい。何度も復唱しましょう。

さて、ここまでの 20 本弱の例文を見てきましたが、類似の文を見たときに、「あっ、あそこの例文と似ているから〇〇用法だ！」と判断できるようにしておいてくださいね。最後は「独立不定詞」を見ていきます。これは例文を覚えなくていい。そのカタマリで一つの意味を持っている、独立している不定詞だから「独立不定詞」なので、例文で覚えなくても十分に理解できます。じゃあ、見ていきましょう。

## 不定詞副詞用法 「独立不定詞」

to tell (you) the truth	「実を言うと」
to be frank (with you)	「率直に言うと」
so to speak	「いわば」
to begin [start] with	「まず最初に」
to make matters worse	「さらに悪いことに」
needless to say	「言うまでもなく」
to say nothing of	「言うまでもなく」
not to mention	「言うまでもなく」
to be brief	「簡潔に言うと」
to be sure	「確かに」
to do ~ justice	「～を公平に評すると」
to sum up	「簡潔に言うと」
to say the least (of it)	「控えめに言うと」
not to say	「～とは言わないまでも」
not to speak of	「言うまでもなく」
strange to say	「奇妙なことに」
to make a long story short	「かいつまんで言うと」

こういうのは、書いて覚えちゃダメ。きりがいいから。適当に節をつけて、リズムよく口に出して読んでください。20 回ずつでも読めば、すぐに覚えていますよ。さあ、副詞用法はこれでおしまい。最後のまとめにいきましょう。

## ●代不定詞と seem 構文をやって、不定詞はおしまい！

じゃあ、最後に行きますよ。代不定詞。これは簡単です。例えば、Did you see the movie? と聞かれたら、普通、Yes, I did. とか No, I did. と答えるよね。あんまり Yes, I saw the movie. とは言わない。なんでかっていうと、話している内容が saw the movie のことだっていうのは、言わなくてもわかるからね。see を代動詞の do に言い換えたわけ。それと同じで、不定詞も 2 度繰り返すのがくどいときは、to V の V を省略します。これを代不定詞というというだけです。例文見て終わりにしましょう。

He came here though I told him not **to** (come) .

「私は彼にここに来ないようにと言ったが、彼は来た。」  
元の文＝ He did not come.

それから、seem 構文の書き換え。これなんかも丸暗記するんですが、理解している君たちにはいちいち不要なものです。見てごらん。これを見てピンときたらば、不定詞卒業試験は合格です。

S seem to do 「～であると思える」	= It seem that S V ～
S seem to have done 「～だったと思える」	=It seem that S Ved ～
S seemed to do 「～であると思えた」	=It seemed that S Ved～
S seemed to have done 「～だったと思えた」	=It seemed that S had p.p. ～

こんな暗記しろって言われた受験生の気持ちを考えると暗くなりますね(笑)。君たちはニヤニヤ笑いをしているところではありませんか。

改めて説明すると、seem、他にも think や believe もそうなんだけど、目的語に that 節も to 不定詞もとれるんです。つまり同じ内容の目的語を文のままでも、文を崩した形でも書けるわけです。それを利用して、受験では「これを that 節から不定詞に(またはその逆に)書き換えてごらん。」って問題が出るんです。こんな問題が出るっていうのは、やっぱり英文法は「暗記ではなくて理解だ」っていうなによりの証拠でしょうね。理解している人があまりにも有利な出題です。

上から説明していきますよ。と言っても一番上は解説不要ですね。これがもうわからないひとは第0講をしっかりと読み直してください。

二番目は動詞が現在形の seem で、不定詞が to have Vp.p.の完了不定詞になってます。完了不定詞というのは特定の時制を表すのではなく、Vの時制よりひとつ前を示すだけです。だから今回は過去形を崩していることが分かります。だから元の文に戻すときは過去形にしてねってだけです。

三番目は動詞が過去形の **seem**。不定詞は普通の不定詞ですから、時制はズレていない。だから文で書くならどちらも過去形で書いてくださいということ。

そして最後。主節の動詞は過去形で、不定詞は完了不定詞です。ということは過去よりもさらにひとつ前ですので、大過去で書けば **OK**。

どうです、準動詞ってよくできているでしょう。こんなにシステムチックにできてるんだから、それを丸暗記するのはもうおバカとしか言えない。例えばあらゆる足し算の答えを丸暗記していくようなもんです。そんな人はいないでしょ。「 $345+15$  は  $360$  だ。中学で覚えたからね。」とか「 $240+3$  はなんだっけ〜。もう小学校5年でやったきりだから忘れた。」とか言いますか(笑)。そんな人いません。九九くらいの数なら覚えたほうが便利かもしれないけどね。

さて、不定詞はこれでおしまいです。次は動名詞ですが…。理解を徹底したみなさんにはご褒美があるかもしれませんよ。

## 第3講 動名詞の理解

### ●動名詞の基本は不定詞とほとんど同じ！とっても楽！

では、今回から動名詞に入っていきます。ようやくといった感じですね。不定詞のボリュームはすさまじいですから。でもここからは割とサクサク行くんじゃないでしょうかね。ではもう一度「準動詞のはたらき」の板書を確認してみましょう。

#### 準動詞のはたらき

文	名詞	形容詞	副詞	形
不定詞	○	○	○	to V ~
動名詞	○	—	—	~ing
分詞	—	○	—	~ing / p.p.
分詞構文	—	—	○	~ing / p.p.

動名詞は簡単そうでしょ。要するに「名詞用法の ing 形」ということです。そしてそのはたらきは不定詞と多くの場合、かぶっています。だって、上巻で、これ、どっちでもいいって話したでしょ。

⑤                  ⑥

(1) I like to play baseball.      「私は野球をすることが好きだ。」  
S   V   O

⑤                  ⑥

(2) I like playing baseball.      「私は野球をすることが好きだ。」  
S   V   O

きちんと不定詞を理解した皆さんにとっては、動名詞を理解することは難しくもなんともありません。なにせまったく同じですから。文を崩した

もので、その崩したカタマリが名詞のはたらきをしていて、その⑤をing形で表すだけ。だから、動名詞の学習項目は「不定詞とのちがい」をやっていくということになります。じゃあ、見ていきましょう。

## ●不定詞と動名詞の各形を確認しよう！

じゃあ、動名詞の「否定」「完了動名詞」「受動態」「意味上の主語」の形を見ていきましょう。不定詞の形に関しても、上巻の第0講でこれらの存在意義を理解するときに例文で出したくらいで、正確に形を教えていませんでしたので、一緒にやっていきます。2者の形を比較していただきます。なお、ここでは形の比較しかやりませんよ。まだこれらの使いどころがわかっていないという人は、ちゃんと第0講を見てくださいよ。

	動名詞	不定詞
否定	not Ving	not to V
完了準動詞	having p.p.	to have Vp.p.
受動態	being p.p.	to be Vp.p.
意味上の主語(⑤)	所有格・目的格	for(of)名詞

上から4つは特に簡単ですね。不定詞だと to＋動詞の原形になるところが、Ving になっただけです。

不定詞と動名詞の否定形(否定文を崩した形)

⑤                  ⑥

He told me [**not to open** the door] (不定詞の否定)

He told me [**not opening** the door] (動名詞の否定)

S    V   O   O

「彼は私にドアを開けないよう言った。」

元の文＝ I didn't open the door.

同じ例文から作ったので、ちょっと横着した書き方にしてみました。否定文を崩して準動詞を作った場合は、not を準動詞の直前に置くだけでしたね。文法問題でも頻出だという話をしたところでした。本当、なんでこんな問題が頻出なんだろうね。



完了不定詞と完了動名詞 (時制にズレがある文を崩した形)

⑤ ④

He seems [to have been rich]. (完了不定詞)

S V C

「彼はお金持ちであったように思われる。」

元の文=He was rich.

⑤ ④

I regret [having lost my temper in class]. (完了動名詞)

S V O

「私は教室で怒りが爆発してしまったことを後悔している。」

元の文=I lost my temper in class.

しつこいですが、完了準動詞はVよりVの方が前であることを示して、なんとか時間差(というか順番)を表すやつです。上が完了不定詞。不定詞の最後にやった seem の例文です。「昔金持ちだったと今思われる」んだからね。He seems to be rich. と言えば seems と時間差がないから to be rich は今の話になります。訳すとどうなる？

生徒「彼はお金持ちであるように思える。」

だね。He seemed to be rich.だと？

生徒「彼はお金持ちであったように思えた。」

そう、動詞が seemed なので、to be rich も過去になるってわけです。そして、He seemed to have been rich. と言えば、彼がかつてお金持ちだったのは、そう思った当時よりさらに前ってことですね。

下の文はそれを動名詞で書いたものです。これも同じ。「さっき怒りが爆発してしまったことを今後悔してる」。まあ、教室で怒りを爆発させなきゃいけないっていうのは、指導能力が低いってことですよ(笑)。信頼関係がないってことです。だいたいこういうことって「怒る→関係が悪化する→また怒る」っていう悪循環に陥るので、あんまり感情的に叱りすぎてもいけません。怒るって、実はなかなかスキルが必要なことなんです。話が脱線しましたね。受動態にいきます。

## 不定詞と動名詞の受動態（受動態の文を崩した形）

⑤                  ④

These shoes need [to be polished].

S                  V    O

「これらの靴は磨く必要がある。」  
元の文 = These shoes are polished.

⑤                  ④

I like [being given a present].

S V                  O

「私は、プレゼントを貰うことが好きです。」  
元の文 = I was given a present.

まあ、説明はいらないですね。受動態の文を崩すようになりますよ、ということです。動名詞にするか不定詞にするかで形は違いますから、きちんと覚えておくこと。

さて、次は意味上の主語ですが、⑤の表し方が少し変わりますので気を付けてください。見てみましょうか。

## 動名詞の意味上の主語（消えた⑤を戻した形）

⑤                  ④

I am sure of [**his** succeeding].

S    V                  C

⑤                  ④

I am sure of [**him** succeeding].

S    V                  C

「私は彼の成功を確信している。」  
元の文 = He succeeds.  
(be sure of ~ = ~を確信している)

不定詞はこれまでも何度も解説してきたので今回は省略しました。これが動名詞の意味上の主語の形です。動名詞の意味上の主語が所有格か目的格で表します。基本的に所有格を使うんだけど、動名詞が、他動詞や目的語の後にある場合は、目的格を使うこともあります。今回は of という前置詞の後ろだから his succeeding でも him succeeding でも大丈夫というわけ

です。訳は「彼が成功すること」。なんで動名詞の意味上の主語に所有格と目的格と二つあるか。所有格はわかりやすいですね。動名詞はあくまで「名詞」だから、動名詞を「もの」と考える。「彼のカバン」を **his bag** っていうように、**succeed** という動作を所有しているのは彼だから **his succeeding** ってたわけね。「彼の成功」って。意味通るでしょ。こうすれば動名詞のカタマリだけ見ると、問題はない。でも動名詞のカタマリの外の関係を見てみて。この動名詞句は名詞として **of** の目的語になっている。でも **I am sure of his**…って言い方はしないよね。そこが気持ち悪い。普通はどう言う？

生徒「**of him**」

だよ。ということで、他動詞や前置詞の後ろなら目的格が普通だろってことで **him succeeding** というのも **OK** にしたわけ。でもそうすると **him succeeding** って言い方が気持ち悪くなりますね。結局どっちもどっちなのよ(笑)。それでズルズル今まで来てしまったということです。まあ、形の問題で、存在意義や扱いは不定詞の意味上の主語と同じです。だから **his(him) succeeding** って書いてあるからって、「彼の成功」としてはいけないのは **for him to succeed** って書いてあっても「彼にとって成功すること」って訳してはいけないのと同じですね。

生徒「じゃあここって、不定詞で書いて、**I'm sure of for he to succeed** って書いてもいいってことですか？」

おおおおお！いい質問ですねえ。実はそれはできません！なんででしょう？

生徒「ええ～、余計なこと言わなきゃよかった(笑)」

なんでよー、すごくいいこと言ったんだよ。実はね、今回準動詞が前置詞の目的語の位置に来ているのわかる？前置詞は後ろ名詞だから、ここに準動詞を入れようと思ったら、当然不定詞の名詞用法か、動名詞にするしかないよね？そうなんだけど、実は前置詞の後ろには不定詞は来られないんだ。

生徒「なんでですか？」

言語学的な話になるけれど、実は不定詞の to って、元々は前置詞だったんだよ。そうすると前置詞の後ろに不定詞が来ると、ネイティブ的には前置詞がかぶっているように見えて気持ちが悪いんだって。だから歴史的に前置詞の後ろに準動詞を入れるときは動名詞しかないんだ。これも文法問題で頻出だから、必ず押さえようね。なんで頻出かって？だって、これこそ不定詞との違いでしょ。不定詞といつも比べられてきた動名詞くんが、唯一自分の存在意義を見出して、輝けるところだもんね。なんだか兄弟コンプレックスみたいな話だ(笑)。弟がものすごく頭よくてお兄ちゃんガチ回みみたいな(笑)。弟の高校受験の時、家族で唯一「落ちろ！」って願っているような暗い兄貴が、唯一勝てるのがバスケだったら、お兄ちゃんは皆に認めてほしくてバスケ頑張りまくるでしょ。そしたらお兄ちゃんの特徴は「弟と違ってバスケができる」というのがかなりのウェイトを占めてくるよね(笑)。よくわからないけどそんなようなものだよ。

前置詞の後ろに不定詞は来ることができない！それなら動名詞を入れろ！

## ●目的語に不定詞をとれない動詞、動名詞をとれない動詞

動名詞の基本形の確認が終わりました。不定詞との違いを学ぶことが動名詞の勉強だと言いましたが、今度はその最たるものです。

動詞には、目的語に不定詞をとれないものと、動名詞をとれないもの、さらに不定詞も動名詞もとれるけど訳がかわるもの…があります。これが死ぬほどややこしい。ただ、英文法問題としては全分野を通じてトップレベルの出題数と言えるくらいよく出ます。まあ、基本は覚えるしかないのだけれど、ある程度は理解で突っ張ることもできるのでやってみましょう。ただ、ある程度覚えたら、問題をたくさん解いていったほうがいいと思います。数は確かに少し多いけど、使われる動詞は限られているので、何度も解いているうちに身につけていきますから。

目的語に動名詞を取れない動詞(不定詞名詞用法をとる動詞)

(覚え方: MAC DOH SELF PR(マックどう?セルフPR))

<b>M</b>	<b>manage</b>	(なんとか~する)	<b>F</b>	<b>fear</b>	(~をためらう)
	<b>mean</b>	(~するつもりだ)	<b>P</b>	<b>plan</b>	(~を計画する)
<b>A</b>	<b>agree</b>	(~に賛同する)		<b>pretend</b>	(~のふりをする)
<b>C</b>	<b>care</b>	(~したい)	<b>R</b>	<b>refuse</b>	(~を拒絶する)
	<b>choose</b>	(~を決める)			
<b>D</b>	<b>decide</b>	(~を決める)			
	<b>desire</b>	(~したい)			
<b>O</b>	<b>offer</b>	(~を申し出る)			
<b>H</b>	<b>hope</b>	(~したい)			
<b>S</b>	<b>seek</b>	(~の努力をする)			
<b>E</b>	<b>expect</b>	(~を期待する)			
<b>L</b>	<b>learn</b>	(~するようになる)			

目的語に不定詞名詞用法を取れない動詞(動名詞などをとる動詞)

(覚え方: MEGAFEPS CREAM(メガフェブスクリーム))

<b>M</b>	<b>mind</b>	(~をいやがる)	<b>S</b>	<b>stop</b>	(~することを止める)
<b>E</b>	<b>enjoy</b>	(~を楽しむ)		<b>suggest</b>	(~を提案する)
<b>G</b>	<b>give up</b>	(~をあきらめる)	<b>C</b>	<b>consider</b>	(~を熟慮する)
	<b>go on</b>	(~し続ける)	<b>R</b>	<b>resist</b>	(~に反抗する)
<b>A</b>	<b>avoid</b>	(~を避ける)	<b>E</b>	<b>excuse</b>	(~をゆする)
	<b>advise</b>	(~に忠告する)	<b>A</b>	<b>admit</b>	(~を認める)
<b>F</b>	<b>finish</b>	(~を終わらせる)	<b>M</b>	<b>miss</b>	(~をしそこなう)
	<b>fancy</b>	(~を想像する・好む)			
<b>E</b>	<b>escape</b>	(~を逃れる)			
<b>P</b>	<b>put off</b>	(~を延期する)	これらはよく動名詞を取る動詞と習うが、ただ後ろに不定詞の名詞用法を取らないだけで、普通の名詞等も取るため、不定詞を取れない動詞というのが正しい。		
	<b>postpone</b>	(~を延期する)			
	<b>practice</b>	(~を練習する)			

さあ、これを覚えます。まず皆さんにさしあげるキーワードは以下の通りです。

不定詞＝未来的・能動的・空想的・明るい イメージ  
動名詞＝過去の・消極的・現実的・暗い イメージ

これは、不定詞と動名詞のイメージの傾向をまとめたものです。まず、不定詞。不定詞の to はもともと前置詞の to だということは話した通りで

すね。前置詞の to と言えば、「～に向かっていく」というイメージでしょう。このイメージから、「未来的」「能動的(積極的)」なイメージが生まれました。「未来的」ってことは、「まだ現実にはなっていない」わけですから、空想している状態ですね。さらに「積極的」ってことは自らすすんでやっているということですから、「明るい」イメージも持ちます。

まあ、動名詞はその逆ですね。~ing 形といえば、これは動名詞ではなくて分詞なんだけど(詳しくは下巻で)、「進行形」とかでも使いますね。そのせいかはわからないけれど「もう実際にそうなっている」イメージです。だから「現実的」です。また、不定詞が未来を表すので動名詞は「過去の」なイメージも持ちます。不定詞が未来、動名詞が現在と過去ってことですね。

いまのキーワードをつかって覚えてもいいし、板書に書いた覚え方で強引に MEGAFEPSCREAM！！って覚えてもいいです。ここは理解はそこまで必要ないので。要は問題が解けるかどうかということですからね。もちろん組み合わせて覚えてもいい。ただ、その際に度の覚え方をするのであれ、やってほしいのがスパイラル暗記法と、クラスメイト暗記法です。

## ●煩わしい暗記はスパイラル暗記法&クラスメイト暗記法で解決！

スパイラル暗記法というのは、必ず僕の担当クラスでは紹介して、毎年かなりの実績を上げている暗記法なんだけど、「忘れる前に思い出す」をキーワードに、一気に、そして毎日覚えることで短時間で固めてしまう覚え方です。ダラダラと覚えるのではなくて、まず1時間くらい用意して、一気にこの図を覚えましょう。その後、翌日にでもまたここの復習をする。そうすると半分も残っていません。そこで落としたブドウの実をまた丁寧に拾って、またすぐに復習をする。その都度その都度落ちたブドウを拾い続けていると、いつの間に実は落ちてこなくなる＝定着するということなんだ。だいたい最初はうまくいかなくて、「何回やっても忘れてしまいます。」って弱音を吐く子が多く来るんだけど、ようはブドウの実がボトボト落ちているのにすぐに復習をしないから、收拾がつかなくなっているか、毎日毎日実を拾う作業にすぐに音を上げているかだね。ここはもうちょっと我慢して、「忘れる前に思い出す」精神で、より短いスパンで復習をして、かつ何日間か先に行こう先に行こうと焦る気持ちを我慢して同じことをやり続けることをするだけでいい。不完全なまま先に行ったって、実が全部ボトボトと落ち切ってしまうって、また0からやりなおすだけ。それは

もう残酷なくらい必ずもう一度戻って来てやり直さざるを得ないんだから。

そして今回みたいに、「こいつは目的語に不定詞をとるか動名詞をとるか」みたいな「A か B か」を覚えるものであれば役に立つのが「クラスメイト暗記法」。例えば君たち、「あなたの学校の生徒を各クラス、出席番号順に書いていきなさい。」と言われたらできますか？

生徒「いやあ…無理でしょう…。」

そりゃそうだよね。正直自分のクラスでさえ、自分の番号から遠いところはわからないんじゃないの？でも出席番号順を覚えていないからといって、君たちは自分のクラスメイトを「え…？この人誰？用務員さん？」ってなることはないよね(笑)。日常生活で困ることもないはずだ。それに、「〇〇ちゃんって何組だっけ？」って聞いてもらえれば、「〇〇ちゃんは3組だよー」って、だいたい正しくクラスが言える。仮に全然違う人を連れてこられれば、「いや、この人は多分うちの学校じゃないと思う。」って言えるでしょ。

生徒「確かに。」

今回もそれでいいんだよ。この2つの動詞を丸暗記する必要はない。つまり「動名詞を目的語にとる動詞を全部書け！」なんてことするのは「君たちの学年の生徒を全部書け！」って言ってんのと一緒に。あくまで「〇〇ちゃんは1組？2組？」っていう質問に答えられるレベルなら、入試問題は解ける。今回で言えば「mind って動詞は後ろは不定詞？動名詞？」って質問にね。

生徒「確かにそうですね。」

そこで、まず、あの2つのボックスのメンツをなんとなく覚えます。そこに載っているのがその学年の生徒です。何度も言うが丸暗記する必要はな

い。「mind ちゃんってここの生徒?」「うんそうだよ。」「expect くんは?」「いるいる!」「鬼瓦貞子さんは?」「えー、違うと思う〜。」って言うのでいいわけです。聞かれたらいたかどうかわかるくらいのボンヤリ暗記をします。まあ、ここで意識して覚えなくても普通に覚えていけば「見覚え」くらいつくから大丈夫よ。

その全校生徒は1組(目的語に不定詞をとれない組)と2組(目的語に動名詞をとれない組)に分かれているわけ。あとはこの所属クラスを正しく言えれば受験レベルクリアだよ。例えば表に動詞、裏にクラスを書いたカルタをつくって、遊び感覚でやってもいいし、これからやるように理解してもいい。それを毎日スパイラルすれば、こんなに点がとりやすい分野もないね。スパイラルしているうちに「見覚え」もつきます。

まとめましょう。まずこの動詞に「見覚え」をつける。その動詞がどのクラスか聞かれれば2択に正解できる。それだけでOK。暗唱したり、何も見ずに紙に書き出せるようになる必要はありません。

## ●イメージをつかって、暗記の手間を省け!

たとえ丸暗記するにしてもやっぱりなにも手掛かりがないと、どうしても実の落ちるペースが速い。覚えた瞬間にダダーッと実が落ちている様子なんて、考えるだにおそろしいものでしょう(笑)。そこで、さっき教えたイメージを理解して、クラス分けカルタのヒントを持っておきましょう。

どうして不定詞と動名詞がそういうイメージを持っているかについてはさっきやったので、具体例を見ていきますよ。

目的語に動名詞をとれない動詞(不定詞名詞用法をとる動詞)

<未来的・空想的>

mean, care, choose, decide, desire, offer, hope, seek, expect, plan, refuse

<能動的・明るい>

manage, mean, agree, choose, decide, desire, hope, seek, expect, learn, pretend

ほとんど被ってますね。未来を求めて能動的な行動をするので、当然といえば当然かもしれませんね。最初にまとめた板書でこれらの動詞の訳を



確認しながらやってみてみましょう。例えば **mean, care, choose, decide, desire, offer, hope, seek, expect, plan, refuse** など、これらの動詞の後ろには動名詞は来られません。で、よく学校では「目的語に不定詞をとる動詞」って習うんだけど、別に、不定詞だけじゃなくて普通の名詞とか来るからね。なので、一応「動名詞をとれない」としているんです。逆にわかりにくい(笑)?そういうことがわかっているなら別にどう覚えてもいいよ。

で、これらの動詞の目的語に不定詞がつく。たとえば**mean to do**とか。そうした場合、**mean**という動作をした時はまだ**to do**(Ⅴ)の動作は行われていません。例えば**mean to walk**「散歩するつもりだ」。この場合、決意した(**mean**)時にはまだ散歩してないよね。**hope to go**「行きたい」っていうのも希望した(**hope**)時にはまだ行っていない。これからするんだ。ここはやはり未来志向の不定詞が来なきゃね。同じことなので解説はしないけど、能動的の方も見ておいてください。動名詞の方に行きましょう。

目的語に不定詞名詞用法をとれない動詞(動名詞をとる動詞)

<現在の・過去の・現実的>

**mind, enjoy, give up, go on, avoid, advise, finish, escape, excuse, admit**

<消極的・暗い>

**mind, give up, avoid, finish, escape, put off, postpone, resist, stop, miss**

動名詞はちょっと意味が広いので、正直言って少しわかりにくいですね。だから、不定詞をまず覚えてしまって、「見覚えのあるクラスメイトのうち、1組じゃない生徒は全員2組という方式」で覚えてもいいですね。

動名詞の場合は現実にもう起こっている動作であるということがポイントです。たとえば **give up reading**「読書をやめる」と言えば、もう読書(**read**)はしているわけですね。また、不定詞の逆なので、消極的な意味を持つことが多いのが下の段。覚えておきましょう。ただ、結構この辺りは専門の文法語学書でも意見がキッチリしないので、専門家でもなかなか言い切るのは大変みたいですねえ。まあ、これらのヒントを活用して、暗記の布石にしてくださいね。

次は、動名詞と不定詞のどちらも目的語にとれるが、意味が変わる動詞をやっておしまいです。ここは少ないので簡単です。意味の違いもわかり

やすいですよ。

目的語に動名詞も不定詞名詞用法も取るが、意味が変わる動詞

(覚え方：ただ覚える)

try	toV (～しようとする)	stop	toV (～するために立ち止まる)
	Ving (試しに～する)		Ving (～するのを止める)
remember	toV (忘れずに～する)		
	Ving (～したのを覚えている)		
regret	toV (～するのが残念だ)		
	Ving (～したのを後悔する)		
require	toV (～する必要がある)		
	Ving (～される必要がある)		
forget	toV (～するのを忘れる)		
	Ving (～したのを忘れる)		
want	toV (～したい)		
	Ving (～される必要がある)		

どうですか？不定詞は「未来」、動名詞は「過去」「現在」「現実」「受動」にハッキリとなっていますね。これは覚えやすい。

生徒「先生」

なんですか？

生徒「try Ving の『試しに～する』って、動名詞のどの意味にも当てはまらなくないですか？」

いい質問です。確かに一見そう見えますね。でもこれ、言い換えてみれば「～してみても結果を見る」ということですよ。また動作を行っていない try toV と違って、動作を実際に行っています。だから「現実」です。こうすればわかるでしょ？

生徒「え？あれ、先生。」

なんでしょう。積極的ですね。

生徒「stop って、動名詞しかとらない動詞に書いてあるんですけど、ここで両方とるって書いてあるんですが、頭おかしいんですか。」

いや、続けていい質問だね。これくらいいい質問をいつもやってくればいいですね。でも、頭おかしいとか先生に言うことじゃないね。今回は実は特別なんです。

He stopped to talk. 「彼は話すために立ち止まった。」

この英文ですね。「彼は話すために立ち止まった」という意味です。確かに後ろに不定詞が来ています。おかしなはなしです。しかも「話すために」ってなんでこんな意味になってるんでしょうか？

生徒「……………」

では種明かしです。実はこれ、目的語としては不定詞をとっていないんです。これ、不定詞は名詞用法じゃなくて、副詞用法の「目的」なんです。

He stopped <( in order ) to talk>.

わかった？この in order to V の in order が消えたというわけ。だから正確に言うと目的語ではなく、動詞 stop を修飾する副詞なんです。

生徒「なるほど〜。」

ちなみに、in order to V 以外で目的用法特有の表現は？

生徒「え〜っと、ほら、あれですよ。あれ。」

きちんと復習しておきなさいよ。so as to V ね。ちなみにクイズです。次の内、「禁煙する」のはどっち？

stop to smoke  
stop smoking

生徒「stop smoking?」

そうですね。後ろが動名詞なので、実際に smoke はしている。そして、その smoke を stop するわけですから、「タバコを吸うのを止める」。つまり「禁煙する」というわけです。これが stop to smoke だとどうなるか。「smoke」は未来的なイメージ(想像)になってしまうので、まだ喫煙していないんです。そして積極的に smoke するために stop しているんで、これは「タバコを吸うために立ち止まった。」っていう意味になってしまいます。それって、もう禁煙どころか、バリバリ喫煙していますね。この辺も意味をしっかりと理解していれば納得できますね。それでは最後に慣用表現を覚えて終わりましょう。

## ●動名詞の慣用表現

動名詞は覚えることばかりですが、逆に言えばいったん覚えてしまえば文法問題で動名詞に関しては間違えることがなくなるということです。なので、文法の得意分野を作りたいと思ったら、動名詞から入るのがいいですね。1日頑張ればなんとかなります。さて、動名詞が使われる慣用表現についてやっていきます。これを覚えて動名詞はおしまいです。不定詞ほどボリュームはないけど、動名詞は動名詞の辛さがありますね。じゃあ、行きますよ。

## 動名詞の慣用表現

look forward to Ving	「～するのを楽しみに待つ」
be used[accstomed] to Ving	「～するのに慣れている」
get used[accustomed] to Ving	「～することに慣れる」
object to Ving	「～するのに反対する」
when it comes to Ving	「～することになると」
What do you say to Ving ? = How[What] about Ving ?	「～してはどうですか」
devote oneself to Ving	「～するのに夢中になる」
with a view to Ving	「～する目的で」
for the purpose of Ving	
feel like Ving	「～したい気がする」
have difficulty[trouble] (in) Ving	「～するのに苦労する」
spend O (in) Ving	「O を～して過ごす」
be busy (in) Ving	「～するのに忙しい」
be worth Ving	「(S を) ～する価値がある」
It is no use[good] Ving = There is no point[use / sense] (in) Ving	「～しても無駄である」
There is no Ving	「～できない」
It goes without saying that + S + V ~	「～は言うまでもない」
never[not] ... without Ving ~	「...すれば必ず～する」
on Ving	「～するとすぐに」
come near[close] (to) Ving	「危うく～するところである」
be on the point of Ving	「まさに～しようとしている」

これ、申し訳ないんですが、一つたりともまけることはできません。必ず全部完璧に覚えてください。いいですか。完璧に、です。そうすればこれだけで動名詞の文法問題のかなりのところを抑えることができます。そうであれば、いちいち理屈をこねる必要はない。覚えてしまいなさい。ここが暗記すべきところです。つまり、ここはブドウの実です。存分に食べなさい。一粒覚えるごとに点数が伸びるんですから。

さて、これが終わったら動名詞もようやくおしまいみたいです。いや、はや準動詞は本当にてこずりますね。今日はここまでにして、次回分詞、分詞構文に入って、準動詞を締めくくっていきましょう。復習はしっかりとね。はい、おしまい。

(準動詞講義の実況中継(下)に続く。)

